

おわりに

兵庫ワイルドライフモノグラフ17号では「兵庫県における獣害対策の進展とこれから」をテーマに、これまで兵庫県が実施してきた獣害対策のための集落支援事業や被害のモニタリング、緩衝帯設置などの取り組みをまとめました。獣害は依然として農業・農村の重大な課題ですし、直接的な被害だけでなく、営農意欲の減退やそれに基づく耕作放棄地の増加などの原因にもなり得ることを考慮すれば、地域社会への負の影響はさらに大きいと考えられます。獣害対策に関する研究や報告は過去のモノグラフにも数多く見られましたが、獣害対策をテーマとした巻は今回が初めてになります。

今回の17号では兵庫県森林動物研究センターが設立されて以降、兵庫県内で実施されてきた獣害対策に関する研究や実践の報告をまとめ（1章）、獣害対策の主体となるべき集落の対策への意識を分析しています（2章）。また、それら集落を支援するため兵庫県が実施してきた支援事業の効果（3章）や支援体制としての獣害対策チームの概要について（4章）報告するとともに、具体的な取り組みの事例として、県民局が進める獣害対策チーム活動（5章）と地域主体の獣害対策を進めるための支援活動の事例（6章）を紹介しています。7章では分布が拡大し果樹などへの被害も問題となっているアライグマについて、具体的な防御対策とその実践について紹介し、8章では防御と捕獲だけでなく、集落周辺の林縁部の緩衝帯整備についても効果や課題について取りまとめています。

獣害を野生動物による農業被害と定義すると、その対策は防護柵による侵入の防御、集落内外の環境整備、加害個体の捕獲など、有効な技術はほぼ確立され、その成果も普及が進んでいます。しかし獣害対策にとって技術以上に重要なことは、それを主体的に実施可能な集落や地域の体制や人材の育成であり、そのための支援政策であると思われます。そういう意味で、兵庫県は地域主体の獣害対策を支援する事業を10年以上にわたって継続してきており、それらの結果が今回の特集にはまとめられています。農村では人口減少や高齢化も進みつつあり、獣害対策には困難なことも多々ありますが、これらの結果には兵庫県以外の獣害に悩む自治体や集落の方々にも有用な事例があり、是非参考にさせていただきたいと思います。

最後になりましたが、査読責任者の横山研究部長をはじめ論文査読に協力いただいた方々、集落の支援や調査を実施していただいた方々、何より対策を実践していただいた住民の方々など、獣害対策に関係する全ての方々にこの場を借りて感謝いたします。

兵庫ワイルドライフモノグラフ編集委員会
責任編集者 山端 直人